

告 辞

本日、2020年度秋季学位記授与式並びに卒業証書授与式を挙げる事ができ、大変嬉しく思っております。新型コロナウイルス感染症の広がりによって、今年三月の卒業式と同様にオンラインを併用した形での開催とせざるを得ませんでした。保護者や来賓にもご臨席いただけませんが、皆さんの思い出に残る式にしたいと、教職員一同、心を込めて準備を進めてきました。

まず、本日栄えある博士、修士、学士などの学位を取得し、修了・卒業される皆さんに心からの祝意を述べたいと思います。誠におめでとうございます。

博士号取得者五名、修士号取得者41名、学士号取得者143名、留学生別科修了生40名、それに交換留学生32名を合わせて総数261名が、本日本学を巣立ちます。内訳は、日本国内から入学した学生が37名、中国、韓国、台湾、ミャンマー、ベトナム、スリランカ、チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、スペイン、ノルウェー、フランスから来られた留学生が124名となります。

修了、卒業の榮譽を得るまでの間には、やむなく病氣療養したり、学費を稼ぐためのアルバイトに時間を取られたりして、思うように学業がはかどらない時が多かったに違いありません。特にコロナ禍に見舞われた最後の半年は、実家や母国に帰れないなど、辛く厳しい毎日だったことと思います。命と健康を守るためとはいえ、キャンパスも閉鎖せざるを得なくなり、私たちが胸が痛むばかりの日々でした。皆さんはそんなさまざまな困難を乗り越え、必要単位数をクリアされて、本日無事に博士、修士、または学士の学位を手に入れました。皆さんは成し遂げたのです。その成果を大いに誇り、自信をもって新しい舞台に上がって、さらに頑張ってもらいたいと願っています。

さて、現在世界中に広がっている新型コロナウイルス感染症は、我々の生活様式を new normal へと変化させつつあります。その波は教育界にも押し寄せています。オンライン教育の必要性が叫ばれ始めたのは20年も前のことですが、遅々として進みませんでした。それがこの数か月で一気に導入が加速し、本学でもほとんどの講義をオンラインで実施できるようになりました。本日の卒業式もこうしてオンライン中継により、東金キャンパスに来られなかった方々に参加していただくことが適いました。

産業界のテレワークも進んでいます。これまでは、少数のグローバル企業が海外との重要なミーティングなどにテレビ会議を取り入れている程度でしたが、今では、多くの企業がテレワークを継続的に活用しています。東京駅前の丸の内や八重洲の巨大オフィスを縮小する動きもあると聞いていま

す。新型コロナウイルス感染症の拡大に対する社会的離隔政策、すなわち social distancing によって、多くの企業が経済活動にダメージを受ける一方で、オンライン診療、雇用シェア、マイクロツーリズム、ワーケーションといった新たなビジネスモデルや働き方が登場し始めました。また、GAF A をはじめとする IT 系巨大企業はコロナ禍にあっても、その業績に全く陰りが見えないとも聞きます。

さて、このような社会情勢にあって、いま大学を巣立つ皆さんはこれからどうすればよいのでしょうか。大学で得た知識を活用することももちろん必要ですが、実社会では、仕事に向かう姿勢や、チームとしての行動規範や考え方がいわゆる知識の量や質以上に重要となります。皆さんが手掛ける仕事の多くはチームで行われることでしょう。チーム全体の力が仕事の出来不出来を左右することになります。いかに素晴らしいチームを作るかは、皆さんの考え方ひとつです。オンラインでのチームビルディングも経験されるかもしれませんが。オンライン上では対面の時以上に相手を思いやり礼節をもって対話することが大切です。本学で学んだ皆さんには、礼節をもって他者と対峙して行ってほしいと思っています。

また、科学技術が指数関数的に進歩している現代では cutting-edge science、すなわち先端科学を日々注視することが重要になってきます。AI、IoT、そしてビッグデータなどの重要性が叫ばれ、大学でも数年前から文系と理系の区別がなくなりつつあります。これからは、科学に関心を持たない文系卒業生、地理や歴史に無頓着な理系卒業生はいずれも淘汰されていくに違いないと考えています。情と理を兼ね備えた人材こそが、これからの社会に求められています。AI やデータサイエンスの立ち位置を考えると同時に、豊かな想像力を働かせ、未来を築く仕事に挑んでいただきたいと思っています。

残念なことに、未だグローバル化に目を向けず、地球規模の問題にも関心を持たず、自らを変革できずにいる「しがみつき型」の人たちがまだまだ大勢いることも事実です。今日卒業される皆さんの中には、多種多様な背景を持ったたくさんの留学生がいます。皆さんは本学で、グローバルな視点を持って、地域や世界に目を向けて勉強してきました。その果実を活かし、この困難な状況をぜひチャンスに変えて、成長されることを期待しています。

もう一つ重要なことを付け加えておきたいと思います。皆さんはこれから 40 年、50 年と社会に貢献していかれると思います。一度職についたらずっと同じことをやり続ければよいといったような考えは、すぐに捨ててください。時代が変化するスピードはこの先ますます加速していきます。社会でい

ま何が起きているかを常に把握し、変化を恐れず、新しいことを学習し続けることが求められます。城西国際大学に戻って、学び直そうと思うこともあるかもしれませんが。我々教職員も休まずに学び続け、いつでも皆さんの期待に応えられる大学であらねばなりません。

学校法人城西大学の創立者水田三喜男先生は「学問による人間形成」という理念を残されました。先生はまた、生きる上での座標の銘として「偽らず、欺かず、諂わず」と述べられました。皆さんも水田先生の精神を胸に、嘘偽りのない人生を歩み、信念を貫いていただきたいと思っています。

さて、城西国際大学は多数の同窓生を輩出しています。姉妹大学の城西大学の同窓生も各地で活躍しています。両大学の卒業生を合わせると、皆さんの先輩がなんと10万人もいることとなります。私どもも、卒業された皆さんが母校を一層誇らしく振り返ってくださるよう、城西国際大学を発展させてまいります。皆さんも今後は同窓会に集い、いつまでも母校の歩みを見守り続けてください。

以上、皆さんの健康と活躍をお祈りして、告辞といたします。

2020年8月31日
城西国際大学
学長 杉林 堅次